

平成27年度北区政策提案協働事業報告書

平成29年3月

地域振興部地域振興課

目 次

第1章	政策提案協働事業の制度について	
1.	政策提案協働事業の概要	1
2.	募集事業の流れ	2
3.	事業募集について	3
第2章	実施事業の概要	
1.	点字ブロック点検、検証並びに 広域的点字ブロックデータベース制作事業	4
2.	北区の岩淵水門竣工 100 周年に向けて、 90 周年の今（でしよ）できること	11
第3章	政策提案協働事業の評価について	
1.	評価の目的	24
2.	事業の評価方法	24
3.	評価項目	24
4.	評価の流れ	24
5.	自己評価	25
6.	事業の評価	27

第1章 政策提案協働事業の制度について

1. 政策提案協働事業の概要

北区では、平成19年度に区民、NPO、ボランティア団体等の自主的な公益活動に助成を行うため北区協働推進基金を創設しました。

本事業は、この基金を活用し、NPOやボランティア団体等の主体的な関わりの下で区との協働によるまちづくり事業を進め、多様で豊かな地域社会を実現することを目的としています。

北区内に活動拠点を有するNPO、ボランティア団体等の公益活動を行う団体から、先駆的で公益性の高い事業を提案（以下「提案事業」という。）していただき、採択された事業について、区と協働で取り組んでいきます。

募集する事業は、区の地域課題の解決に向け、新たな視点で提案団体と区が取り組むことのできる事業です。

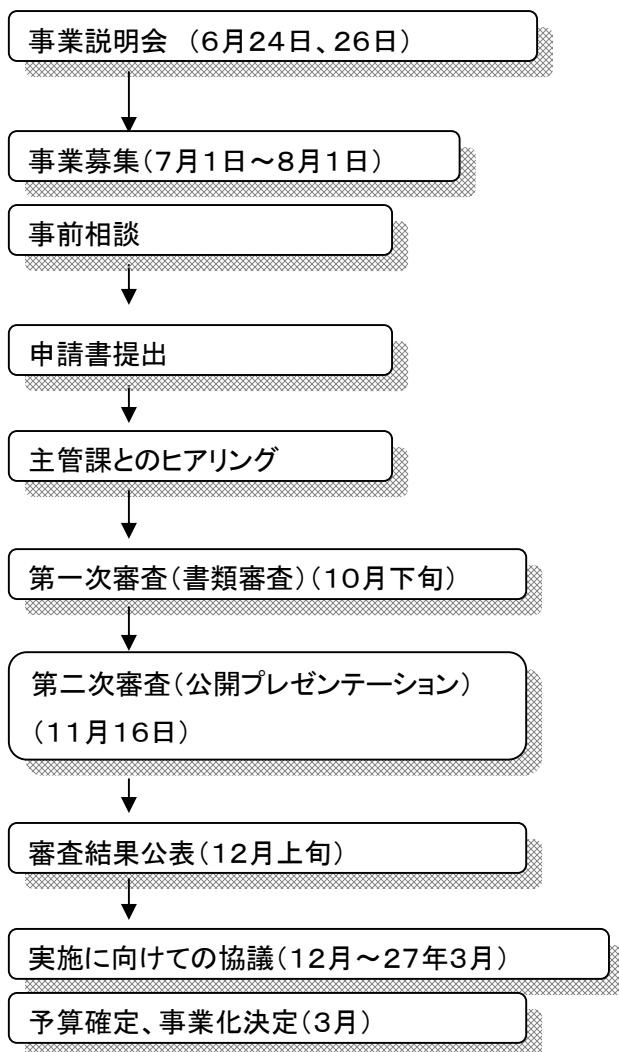
一事業に対して区が支出する上限は、300万円です（平成26年度募集時）。この300万円は、提案団体と区の双方の事業経費です。

応募していただいた提案は、提案団体と提案に関連する主管課（以下「主管課」という。）とのヒアリングを実施し、書類審査、プレゼンテーションにより北区協働地域づくり推進事業選定委員会（以下「選定委員会」という。）が審査します。

平成26年度は、8事業の応募があり2事業が選定され、27年度に実施しました。

2. 募集事業の流れ

【平成26年度】



【事業説明会(自由参加)／事前相談】

事業概要や提出書類について説明します。

2日で3回実施し、33名(28団体)が参加しました。

また、申請書の書き方などの相談を受け付けます。

【申請】

申請事業に関する書類(所定の書類)や団体に関する書類(名簿や規則など)を提出。

【ヒアリング】

主管課と事業化に向けて協議を行っていただきます。より実現性の高い事業となるよう事業内容の詳細を検討していきます。

【審査】

北区協働地域づくり推進事業選定委員会を対象事業を審査します。

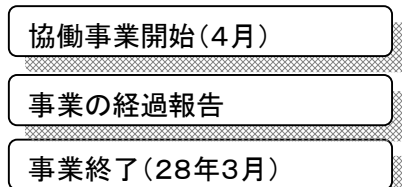
【公表】

事業概要や団体名を公表します。

【実施に向けての協議】

事業実施に向けて、主管課を交えたワークショップ等を行い、具体的な協議を進めていきます。

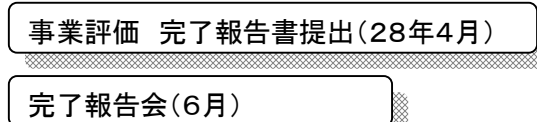
【平成27年度】



【経過報告】

四半期ごとに事業報告を提出。

【平成28年度】



【事業評価】

事業終了後、事業効果や実施手法等についての評価を行います。

3. 事業募集について

(1) 審査基準

審査対象	審査基準
第一次 審査基準 (書類審査)	①事業目的は地域課題の解決を目的としたものか
	②事業手法に独自性、先駆性等提案団体の特性が認められるか
	③適切な役割分担となっているか
	④提案事業は実現可能か
	⑤協働で取り組むことによる事業効果を認めることはできるか
第二次 審査基準 (プレゼンテーション)	①提案団体に事業の実現に対する熱意・意欲が感じられるか
	②提案団体に事業を実現する能力を認めることができるか
	③提案団体に新しい課題に対するチャレンジ精神を認めることはできるか
	④事業内容に整合性が認められるか
	⑤協働への取組により提案団体、区に相乗効果が期待できるか
	⑥総合的観点から、実施すべき事業と認めることができるか

(2) 選定事業

	事業名	団体名
1	点字ブロック点検、検証並びに 広域的点字ブロックデータベース 制作事業	特定非営利活動法人 ことばの道案内
2	北区の岩淵水門竣工 100 周年に向けて、 90 周年の今（でしょ）できること	NPO 法人あらかわ学会

第2章 実施事業の概要

1. 点字ブロック点検、検証並びに広域的点字ブロックデータベース制作事業

提案団体 特定非営利活動法人ことばの道案内

主管課 都市計画課

(1) 団体概要

主に地図や画像等を理解することが困難な視覚しょうがい者や視力の低下した高齢者の方々のために、言葉の説明による道案内、言わば、言葉の地図を制作することを大きな活動の目的にしております。

そして、その制作した道案内情報を、ウォーキングナビというWEBで公開しており、誰もが無料で閲覧することが出来ます。

視覚しょうがい者は、音声ソフトの入ったパソコンや、音声機能付きの携帯電話等で、道案内情報を聞く事ができます。

当団体では、上記の活動のほか、ユビキタスコードを内蔵したICタグを道路に埋設し、そのタグに組み込んだ道案内情報を、携帯電話等で受け、視覚しょうがい者のより安全な誘導システムの普及を図っています。

この他、安全な駅の構内の歩行のための「ことばでわかる駅情報」、視覚しょうがい者への接遇の講習会等、視覚しょうがい者のための様々な事業もおこなっています。

(2) 事業目的

点字ブロックの敷設状況を把握し、管理しやすいようデータベース化します。これを基に、敷設に関しての改善や改修提案をさせていただき、視覚しょうがい者が一人でも安全に歩行出来るようにします。

点字ブロックの重要性を伝えるべく、定期的に啓発活動をしていき、視覚しょうがい者に対する相互理解を深めます。

(3) 事業概要

- ①視覚しょうがい者と健常者、安全監視者、記録係の4名で1回あたりの測量グループとし、ロードカウンターで距離を、計数カウンターで点字ブロックの枚数を実測しながら対象地を歩行します。1ヶ所あたり合計2回の測量を実施します。
- ②測量の数値を基にして、データ入力及び、地図への書き込み作業を行います。
- ③点字ブロックの点検・検証の際、警告ブロック、進行ブロックの写真撮影をし、データとして地図への書き込み作業を行います。

(4) 役割分担

- 団 体：①点字ブロックの敷設に関して、危険を伴う箇所等の現場調査
確認・敷設希望箇所の記録及び報告
②記録した内容をデータベース化するための入力作業
③視覚しょうがい者向け、ことばの点字ブロック敷設情報作成
- 主 管 課：①点字ブロックの敷設地図により、管轄の違う区道・都道・国
道の敷設が繋がっていない部分を把握し各行政機関への調整
②信号機や横断歩道等の警察所管案件に関する調整
③工事関係データ・関係書類の提示依頼及び要請
④ボランティア募集や事業周知等、本事業に関する広報支援

(5) 事業の実施内容（平成27年4月～平成28年3月）

- | | |
|-----------|--|
| 4月 1日（水） | 北区ニュース（区報）掲載（4月1日号） |
| 4月13日（月） | 打ち合わせ 講習会申込状況他 |
| 4月22日（水） | 講習会 赤羽文化センター |
| 4月25日（土） | 講習会 赤羽文化センター |
| 5月～8月 | 第1回 点検・検証作業及び入力作業 |
| 10月～12月 | 第2回 点検・検証作業及び入力作業 |
| 7月21日（火） | 打ち合わせ 調査ルート進捗状況
第1四半期まとめ
東京都第六建設事務所 点検・検証内容の紹介 |
| 10月29日（木） | 打ち合わせ 第2四半期の振り返り他 |
| 12月18日（金） | 打ち合わせ 28年度協定書締結に向けて他 |
| 1月26日（火） | 打ち合わせ 第3四半期の振り返り他 |
| 2月24日（水） | 打ち合わせ 28年度協定書締結に向けて他 |
| 3月29日（火） | 打ち合わせ 事業実施における準備等について他
第4四半期まとめ |
| 3月末 | 報告書提出 |

(6) 事業の決算額 3,152,958円

区分	項目	金額(円)
収入	法人負担金(寄付金等)	152,958
	北区負担金	3,000,000
	収入計	3,152,958
支出	人件費(調査日当)	1,184,000
	人件費(データ整理)	304,000
	交通費(調査交通費)	49,000
	委託費(データベースソフト開発)	1,285,200
	ボランティア保険	5,100
	備品費(プリンター)	42,120
	備品費(パソコン)	153,000
	備品費(デジカメ・ビデオ)	75,467
	備品費(作業用ベスト)	23,800
	消耗品費(計測カウンター)	9,960
	消耗品費(計数カウンター)	5,508
	消耗品費(インク・その他)	15,803
	支出計	3,152,958

(7) 事業の成果

① 事業参加者募集による人材確保

本事業では、初めて北区から参加されたスタッフを21名(視覚しょうがい者13名、健常者4名)を募ることができました。この意義はとても大きく、今後この事業を拡大そして維持更新していくために必要な地域の活力となります。これらの経緯から考えるに、協働事業として周知された証で有意義な広報となりました。

② 視覚しょうがい者と健常者の相互理解

一般的に、視覚しょうがい者を対象とした活動は、それぞれ単独で活動されている団体が多い中、私どもは予ねてより一緒に活動することを指針にしております。本事業でも一緒に活動するなか、はじめて視覚しょうがい者と接する健常者もあり有意義な活動となりました。

③ 点字ブロックの敷設状況をデータベース化

点字ブロックの敷設状況をデータベース化することにより、どこに、どのように敷設されているかがすぐわかり、また、修繕が必要な時にも位置の把握がすばやく出来ます。

④ 点字ブロックデータ検索サイトを作成

作成したデータを視覚しょうがい者向けに、敷設状況等をことばの情報に

て提供します。すなわち、これらのことを包含するデータベースを基に点字ブロックデータ検索サイトを作成しました。

点検・検証の際、壊れ・ガタツキ・色の剥がれ等の写真撮影を行い、点字ブロックデータ検索サイトに登録しました。

(8) 平成28年度の実施

28年度以降も引き続き、赤羽地区の点字ブロック点検・検証作業も継続して作成します。

添付資料

- ・講習会参加募集（北区ニュース）
- ・点検・検証現地作業等の写真
- ・点字ブロックデータ検索サイト表紙

講習会参加募集（北区ニュース）

◆点字ブロック点検、検証
活動参加者募集

北区政策提案協働事業

対 区内在住、在勤、在学の20歳
以上の方

日 4月22日(水)・25日(土) 計2回
午後1時30分～4時30分

場 赤羽文化センター第1学習室
A（赤羽西1-6-1-301）

内 王子駅周辺の点字ブロック敷
設状況の地図を作成します。

申 Eメール（記入例参照）また
は電話で申込

問先 NPO法人ことばの道案内
事務所 佐藤

☎ (3916) 0300

EM info@kotonavi.jp

点字ブロック測量風景



地図入力作業



新しく都道と区役所敷地とのあいだに接続された点字ブロック





点字ブロック データ検索サイト

このサイトは [認定 NPO 法人ことばの道案内](#) の検索サイトです。

認定 NPO 法人ことばの道案内は、2015 年 4 月から東京都北区と共に『点字ブロック点検・検証及び広域的点字ブロックデータベース制作事業』を実施し、「点字ブロックデータ検索サイト」を作成しました。このシステムでは、点字ブロックの位置や敷設状況に関するデータを地図・一覧表形式で閲覧することができます。データはすべてことばの道案内のメンバーと北区住民による現地調査の結果を基に作成されています。

視覚しょうがい者の外出と社会参加の促進、さらには、みんなが一緒に気持ちよく暮らしていけるように、わたしたち一人ひとりが、お年寄りや障がいがある人などの気持ちになって考え、協力していき相互理解を深めるために、ぜひこのシステムを活用してください。

なお、このサイトは無料でご利用できますが、ご利用にあたっては事前に [点字ブロックデータ検索サイトとは？](#) 並びに [閲覧ページの利用方法](#) をお読みください。

検証データ

下記のリンクをクリックしてください。

No	検証区域名	開始日	終了日	住所
1	東京都北区バリアフリー重点整備地区_王子	2015-04-01	2016-03-31	東京都 北区

メールでのお問合せやご意見はこちら info@kotonavi.jp



携帯サイトはこちら

<http://www.kotonavi.jp/tenjiview/>

[リンクについて](#) [著作権について](#)

Copyright(C) 2015-2016 KOTONAVI. All Right Reserved.

2. 北区の岩淵水門竣工 100 周年に向けて、

90 周年の今（でしよ）できること

提案団体 NPO 法人あらかわ学会

主管課 道路公園課

(1) 団体概要

多くの人たちに愛される荒川づくりに思いを馳せるさまざまな分野の人たちに対して、荒川（流域）に関する調査・研究・活動の報告・情報の交換ならびに交流の場の提供、荒川（流域）に関する学術、文化等の探求活動を行っています。平成15年3月にNPO法人化しました。

近年は、流域3団体の実行委員会方式による連続シンポジウム「東京大水害から100年、そしてこれから」の実施、荒川下流河川事務所との協働による「荒川下流域における環境と防災に関する意識調査」等を行ってきました。

(2) 事業目的

まもなく迎える「荒川放水路・旧岩淵水門竣工100周年」に向けて、過去に発生した水害箇所情報を取り込み、区の防災対策に活用します。また、水害体験者の記憶の記録、成果物の配布やシンポジウム開催により、水害の実体験を次世代へ継承し、水害に強いまちづくりの推進につなげます。

(3) 事業概要

- ① 水害の記憶を持つ方を集め、小規模な座談会を行いました。
- ② 座談会用ツール及び座談会の記録として、90周年記念ビデオ、北区水害・水路図、北区の水害年表を作成しました。
- ③ 北区の水害や岩淵水門に関する収集資料、座談会情報等を発表し、これからの防災・水防を考えるシンポジウムを開催しました。

(4) 役割分担

団体：座談会、シンポジウムの準備、開催、記録に関わる以下の事項

- ①講師、コーディネーターの選定、派遣、事前調整
- ②座談会での話者の募集
- ③座談会記録の作成
- ④90周年記念ビデオ、北区水害・水路図、年表作成
- ⑤シンポジウムの参加者募集チラシの作成と広報
- ⑥J：COM東京北による記録映像制作のための情報提供

- 主 管 課：①荒川下流河川事務所との資料借用の調整
 ②北区水害・水路図、年表に必要な資料の提供
 ③座談会、シンポジウム会場の確保
 ④シンポジウム等の広報
 ⑤座談会での話者の募集の広報

団体側は、北区史を考える会・北区水辺クラブを協力団体として、3団体が連携して事業に取り組みました。団体と北区の具体的な役割分担は以下の通りです。

		団体			北区	
		あらかわ学会	北区史を考える会	北区水辺クラブ	道路公園課	地域振興課
座談会	会場の確保					●
	コーディネーターの選定、派遣	●	●			
	話者の募集、広報		●		●	
	事前調整	●	●			
	開催	●	●	●	●	●
	記録作成	●	●	●		
記録作成	90周年記念ビデオ	●	●			
	北区水害・水路図			●	●	
	北区の水害年表		●		●	
シンポジウム	会場の確保				●	
	講師、コーディネーターの選定、派遣	●	●		●	
	チラシ作成、広報	●			●	
	資料作成、事前調整	●		●		
	開催	●	●	●	●	●
	記録作成	●		●		

(5) 事業の実施内容（平成27年4月～平成28年3月）

①座談会

2回開催しました。第1回は団体関係者の知人等を話者として集め7月に開催、第2回は赤羽地区（岩淵水門より上流側）を中心に北区ニュースで話者を公募し11月に開催しました。

●第1回座談会

【日時】平成27年7月26日（日）14:00～16:00

【会場】赤羽文化センター第1学習室（北区赤羽西1-6-1-301）

【参加者】

- ・司会 領塚正浩氏（北区史を考える会）
- ・話者 倉木常夫氏（豊島地区）
笹目孝蔵氏（豊島地区）
大澤栄美氏（赤羽北地区）
本谷晴志氏（赤羽西地区）
- ・立ち会い 北区地域振興課2名
北区道路公園課2名
NPO法人あらかわ学会2名
北区史を考える会1名
北区水辺クラブ2名
- ・撮影スタッフ J:COM東京北1名
合計 15名

【内容】

北区内を流れる荒川・隅田川・石神井川に関わる水害や災害について、過去の水害に関する記録や言い伝えがある旧家の方、昭和期以降の水害の実体験がある方にお集まりいただき、以下のお話を伺いました。

- ・父上から聞いた水害の話、カスリン台風以前の荒川の様子
- ・狩野川台風による水害、平成22年の石神井川の水害
- ・カスリン台風による堤防の補強、水害後の荒川河川敷の話、浮間の水害
- ・狩野川台風による土砂崩れ
- ・明治43年の大水害と被災状況の紹介、高木助一郎日記の水害の記述の紹介
- ・昭和40年代の荒川河川敷の洪水

話者にお話いただく参考として、北区の水害の状況を撮影した映像や写真を再編集して作成した「90周年記念ビデオ」を冒頭に放映しました。また、道路公園課所有の旧水路図・水害履歴の大判地図を掲示しました。



会場全体状況（開会あいさつ）



90周年ビデオ放映



座談会の状況



大判地図を用いた話題提供

●第2回座談会

【日時】平成27年11月29日（日）14:00～16:00

【会場】赤羽文化センター第1学習室（北区赤羽西1-6-1-301）

【参加者】

- 司会 大平一典氏（中央大学理工学部特任教授）
 - 話者 押田仍宏氏（赤羽台地区）
中村 繁氏（赤羽西地区）
川上 明氏（赤羽南地区）
荻原通弘氏（志茂地区）
 - 立ち会い 北区地域振興課2名
北区道路公園課2名
NPO法人あらかわ学会3名
北区史を考える会1名
北区水辺クラブ2名
 - 撮影スタッフ J:COM東京北1名
- 合計 16名

【内容】

赤羽地区（岩淵水門より上流側）を中心に、過去に水害を体験された方や水害に関する情報をお持ちの方にお集まりいただき、以下のお話を伺いました。

- ・赤羽台、八幡周辺での水害
- ・弁天通り、赤羽駅西口周辺での水害
- ・赤羽南、根村用水周辺での水害
- ・志茂四丁目地区での水害や水屋の紹介

話者にお話いただく参考として、北区の水害の状況を撮影した映像や写真を再編集して作成した「90周年記念ビデオ」、J：COM東京北製作のシンポジウム映像を冒頭に放映しました。また、以下の資料を配付・机上閲覧・掲示しました。

- ・北区の水害年表（第2版）
- ・北区水害・水路図（第1版）
- ・北区洪水ハザードマップ（北区道路公園課発行）
- ・荒川流域の高低差まるわかりMAP（埼玉県立川の博物館発行）
- ・話者の持参した資料



会場全体状況（開会あいさつ）



シンポジウム映像放映



座談会の状況



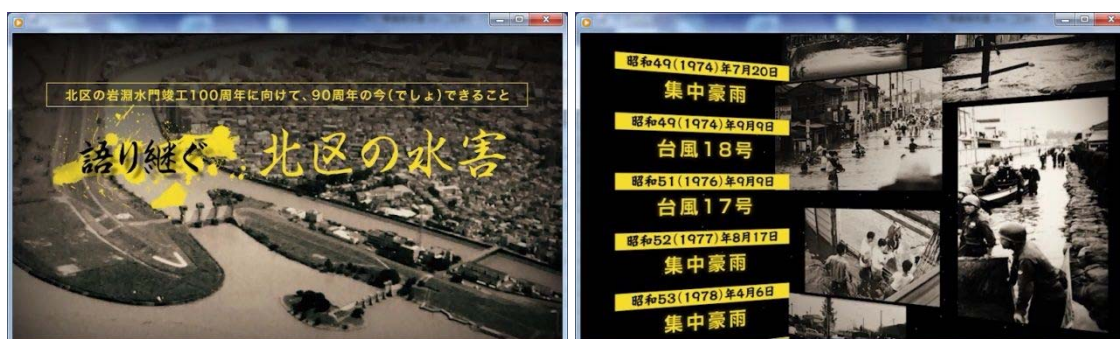
地図を用いた話題提供の状況

②記録作成

座談会で話者の記憶を補助するツールとして、90周年記念ビデオ、北区水害・水路図、北区の水害年表を作成しました。また、座談会の情報を北区水害・水路図や年表にフィードバックしました。

●90周年記念ビデオ

荒川下流河川事務所所有の映像をベースとして、あらかわ学会や北区史を考える会の会員が所有する水害の状況を撮影した写真を付加し、北区の水害について啓発する4分間の映像を編集しました。映像は座談会で上映した他、DVDにダビングし、シンポジウムの記念品として参加者に配布しました。



90周年記念ビデオの映像例

●北区水害・水路図(第2版)

道路公園課の持つ以下の情報を一覧できる地図上に整理し、この地図上に座談会で証言された水害情報を落とし込みました。

- ・水防用の住宅地図に記入された旧水路・旧河川(昭和40年代)
- ・北区洪水ハザードマップ掲載の水害履歴(平成12年~17年)
- ・道路公園課の所有する水害履歴(平成2年~18年)

地図には国土地理院が平成27年7月から一般公開した最新データ「基盤地図情報」を用い、上記情報をGISデータとしてとりまとめました。

座談会で証言された水害の地点は、同「基盤地図情報」の5mメッシュ、1cm分解能のDEM(数値標高モデル)と照合し、すべての地点を現地確認して場所を特定しました。この成果は地図の付録「水害証言集(第1版)」としてまとめました。

●北区の水害年表(第2版)

岩淵水門建設の契機となった明治43年の東京大水害以来、平成27年までの北区に被害をもたらした風水害の年表を、以下の資料を元に作成しました。また、町別の被害状況が一目でわかるよう、町別の被害数も集計整理しました。

- ・北区年表(江戸時代以前~1969(昭和44)年収録)

- 北区史資料編現代別冊「新聞記事目録」(1912(大正元)年~1952(昭和27)年収録)
- 東京都北区地域防災計画(風水害対策編)平成26年度改定「北区の水害履歴」(1993(平成5)年~2014(平成26)年収録)
- 北区飛鳥山博物館発行 平成23年度企画展「天明以来ノ大惨事—明治43年水害と岩淵」
- 土屋信行著「首都水没」、外
- HP 東京都建設局「過去の水害記録」(1974(昭和49)年~2013(平成25)年収録)
- HP 気象庁「災害をもたらした気象事例」、外



北区水害・水路図作成イメージ



会場全体状況（開会あいさつ）



基調講演（土屋信行氏）



第一回座談会ビデオ放映



パネルディスカッション

- 参加者への配布物
- ・シンポジウム資料集
- ・北区水害・水路図（第1次集約版）
- ・北区の水害年表（第1版）
- ・北区洪水ハザードマップ
- ・洪水90周年ビデオ



(6) 事業の決算額 2,090,909 円

区 分	項 目	金 額 (円)
収入	法人負担金	57,659
	北区負担金	2,033,250
	収入計	2,090,909
支出	謝金・賃金	140,000
	旅費	35,910
	消耗品費	14,331
	印刷製本費	413,458
	通信運搬費	8,245
	保険料	0
	使用料・賃借料	2,858
	人件費	693,300
	委託料	741,256
	備品費	0
	対象経費計	2,049,358
	対象外経費	41,551
	支出計	2,090,909

(7) 事業の成果や課題

①座談会

- 話者と司会者を合わせ、各回5名、計10名から水害に関する証言を得ることができました。特に、道路公園課の保有する水害履歴情報のうち、不十分であった昭和時代の水害情報を「北区水害・水路図」等に追加することができました。
- 2回の座談会は、J:COM東京北「デイリーニュース」の簡単な番組として報道して頂きました。
- 第2回座談会は、話者を北区ニュースで公募しましたが、応募者がありませんでした。水害の体験や情報を持つ方の高齢化は毎年進み、年を経るほど話者集めが難しくなることは承知していましたが、応募者ゼロは想定外でした。平成27年度は団体の持つ人脈で話者を集めて開催しましたが、平成28年度についても、話者となりうる方には団体から打診する予定です。
- 水害についての記録を書き残している人もいるので、それを紹介した上で座談会を開始できるとさらに内容が充実したと思います。

②記録作成

- 90周年記念ビデオは大変好評で、事業計画を変更してシンポジウム記念品

としてDVDを配布しました。シンポジウム不参加者からも引き合いが来ていますが、在庫がなくお断りしている状況です。

- 北区水害・水路図は、座談会での水害証言の位置情報特定のため、事業開始後に一般公開された最新の精密標高データを用いました。このデータと突き合わせた上で全地点の現地調査を行い、相当程度の正確性を期すことができました。今後、さらに精査を進めることで、水害履歴情報の質のレベルアップが期待できます。

③シンポジウム

- 参加者数は、計画では50人程度を想定し準備しました。開催のちょうど1ヶ月前に関東・東北豪雨災害が発生し、区民の水害への関心が非常に高い時期での開催だったため、参加者数は想定を大きく上回る82名となりました。区外からも参加者がありました。
- 参加者アンケートを実施しなかったため、全体的な感想等の聴取ができなかったことは課題ですが、J：COM東京北「デイリーニュース」の参加者インタビューでは以下のような感想を頂いております。

①「参考になりました」

②「墨田区から来たんだけど、現実的問題が出て非常に良かったですね」

- パネルディスカッションの時間が足りなくなり、参加者からは会場からの意見をもっと聞いてほしいとの要望がありました。平成28年度は、一般参加者の意見の汲み取り方法を検討する必要があります。
- 参加者記念品として、当初は3Dプリンタを用いた赤水門の超小型模型を作成する予定でした。しかし、3Dプリンタ用データに簡単に変換できる赤水門の図面が荒川下流河川事務所で見つからず、データ作成に技術と時間がかかることがわかりました。また、3Dプリンタのデモ実演には、大がかりな準備や現場での機器調整等、高度な技術が必要になることがわかりました。これらの問題を専門家と相談しながら解決しようと、北区産業振興課に専門業者の紹介を依頼しましたが、その専門業者も見つけることができませんでした。以上のことから、3D模型の作成は断念し、事業計画を変更せざるを得なくなりました。

これらの問題を当初事業計画段階で想定できなかったことについては反省し、今後の計画立案時の教訓と致します。

④全体的な課題

- 本事業の目的は、水害の実体験を次世代へ継承し、水害に強いまちづくりの推進につなげることにあり、このキャッチフレーズを「語り継ぐ北区の水害」と設定しました。平成27年度は「語る」については成功しましたが、座談会やシンポジウムは高齢の方の参加が多く、次世代へ「継ぐ」方については

十分とはいえません。平成28年度は、得られた水害情報を子どもや若い世代にいかにか伝えていくかが課題です。

(8) 平成28年度の取り組み

平成28年度も、座談会とシンポジウムを実施します。

座談会の開催は1回とし、主に隅田川・石神井川沿川（岩淵水門より下流側）の水害の記憶を持つ方を話者として想定します。得られた情報を元に、北区水害・水路図をGISデータとして完成させます。

シンポジウムは、親子連れ世代の興味を得られるよう、屋形船を借り上げて船上で開催します。子ども向けの水害の防災テキストを作成し、シンポジウムで配布する他、将来的にも啓発に利用できる資料として残します。

第3章 政策提案協働事業の評価について

1. 評価の目的

協働事業の成果を団体、主管課、選定委員会で検証することにより、事業の妥当性、実施効果を確認し、協働事業の改善への取組み、今後の協働事業に役立てるために行います。

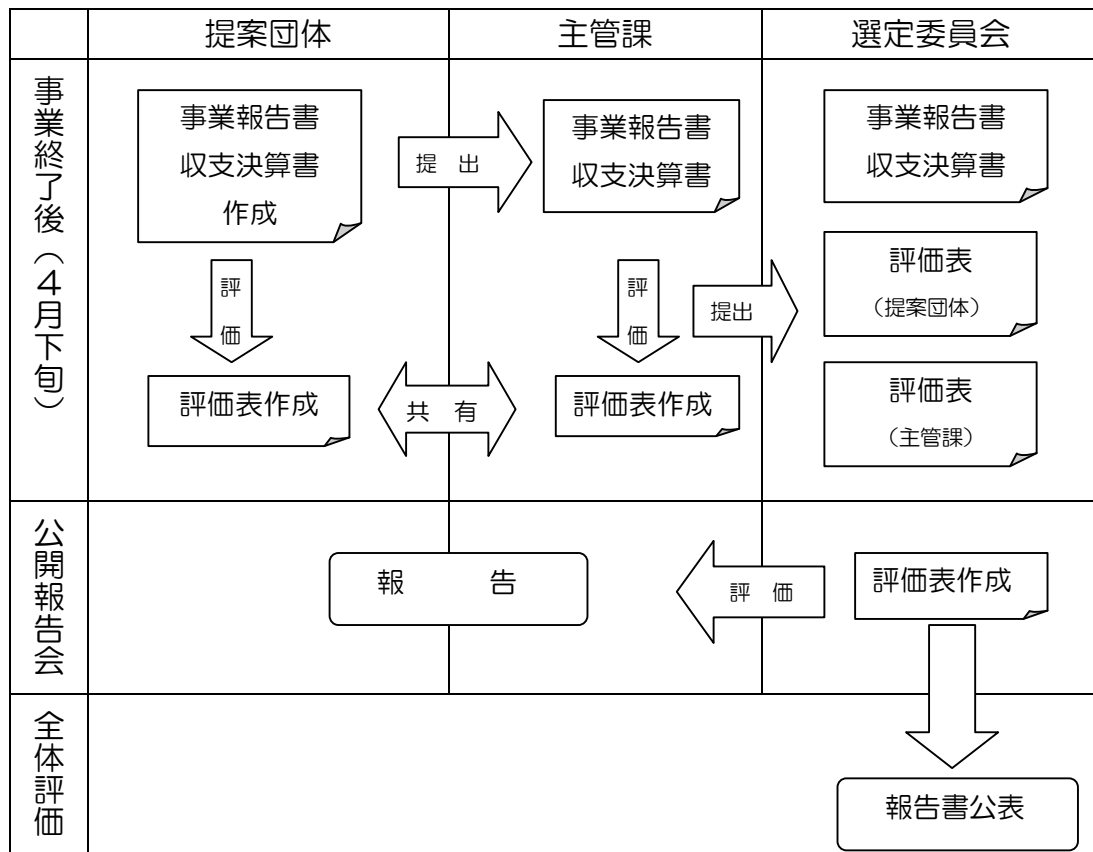
2. 事業の評価方法

協働事業を行った団体と担当の主管課が自己評価を行い、選定委員会へ提出します。事業報告と自己評価に基づき選定委員会が評価し、その内容を公表します。

3. 評価項目

- (1) 計画段階での取組み
- (2) 事業の進め方
- (3) 協働で取り組んだことによる効果
- (4) 協働事業の成果

4. 評価の流れ



5. 自己評価

(1) 点字ブロック点検、検証並びに

広域的点字ブロックデータベース制作事業

①団体の自己評価

事業の初年度であり、点字ブロックについては初めての取組みだったため、現場での点検、確認や地図への点字ブロック情報の落とし込み等、模索しながらの作業であった。特に、地図への情報移行作業、写真の取込み作業の際に写真の取忘れに気付き、再度現場に赴くことになり二度手間、三度手間になったケースがあり、段取りの難しさを感じた。これらの点について、下準備の時間を確保しておけば、もう少し効率的に進められたと感じている。しかし、慣れるにつれてチームワークも良くなり、スムーズに調査を進めることができた。

事業全体では、主管課である都市計画課と事業開始前から本事業の目標等についての打ち合わせを十分に行った。事業開始後も定期的に打ち合わせを行い、調査の進捗状況等の情報を共有することができた。これによりJRや警察等、調査にあたって調整が必要な関係部署への連絡を密に行っていただくことができ、点検・検証作業をスムーズに行うことができた。

また、当事者である北区視覚障害者福祉協会にも協力をいただいた。協会の定例会に参加し、本事業の進め方についての意見交換を行ったり、実際に点検作業に参加していただいた。特に、点検作業に参加していただいたことにより、「視覚しょうがい者と健常者の相互理解」が進んだこと、情報を取りまとめる際に点字ブロックの敷設状況・方法について当事者の意見を聞き、その適切性を評価できたことは本事業の成果である。

②主管課の自己評価

計画段階から定期的な打ち合わせやメール等の連絡により、お互いの役割を確認することができ、関係機関への事前説明や事業の周知を図ることができた。

事業が開始してからも、現地調査やシステム開発等について、計画段階から引き続き、定期的な打ち合わせや情報共有により、調査の進捗状況、安全確保の対応、システムに必要な機能の追加等、臨機応変に対応することができた。

本事業により、利用者の視点から改善や補修、新設が必要な箇所、道路と建物との点字ブロックの連続性が確保されていない箇所等を確認することができた。今後の施設整備に対する連携への発展につなげられる取組みである。また、行政（作り手）と利用者との双方向のコミュニケーションが円滑になることで、互いの理解の醸成や協働の必要性の認識につながり、みんなが安心して歩行できる空間づくりには欠かせない取組みである。

本事業と並行しながら、「困っている人がいたら声を掛ける」等、地域で支え合える「こころのバリアフリー」の普及・啓発に取り組んでいきたい。

(2) 北区の岩淵水門竣工 100 周年に向けて、

90 周年の今（でしょ）できること

①団体の自己評価

本事業は、当団体と主管課である道路公園課に加え、協力団体（2 団体）で実施するものであったため、毎回の打ち合わせで「実施計画工程表」を共有し、実施項目、役割分担、スケジュールの共通認識化に努めた。事業目的等について、協力団体の隅々にまで理解が進んでいたとは言い難い部分もあったが、当団体と主管課との間では情報共有はできていた。主管課とは、当団体や協力団体の会員が様々な機会を通じて知り合っていたため、特性の理解や信頼関係については事業実施前から概ね構築できていた。そのため、事業計画作成段階での話し合いも十分に行い、事業開始後も、主管課の持つ水害等の情報提供、荒川下流河川事務所や北区中央図書館の持つ情報提供の調整等、主管課の関わった部分は多く、「協働」で実施するにふさわしい事業であった。

ただし、当初計画にあった 3D プリンターを用いた赤水門の小型模型を事業の途中段階で断念し、事業計画を変更せざるを得なくなった。このことについては、当初事業計画段階で想定できなかったことを反省し、今後の計画立案時の教訓としたい。また、座談会について、水害の体験や情報を持つ話者を北区ニュースで公募したが、応募者が 1 人もいなかったことも想定外であった。28 年度は話者となりうる方に団体から打診するつもりである。

成果物の北区水害・水路図については、国土地理院が平成 27 年 7 月から一般公開した最新の「基盤地図情報」や「数値標高モデル」を取り込むことにより、水害地点情報に相当程度の正確性を持たせることができた点は評価したい。

本事業の目的は、水害の実体験を次世代へ継承し、水害に強いまちづくりの推進につなげることにあり、キャッチフレーズを「語り継ぐ北区の水害」と設定した。今年度は「語る」については成功したが、座談会やシンポジウムの参加者は高齢の方が多く、次世代へ「継ぐ」ことについては十分とは言えない。28 年度は、得られた水害情報を子どもや若い世代にいかにつまづいていくかを考えていきたい。

②主管課の自己評価

団体と主管課の役割分担を事業開始早々に明確にしたことで、計画的に事業を進めることができた。しかし、当初計画ではシンポジウムの参加者記念品として、3D プリンターを用いた赤水門の小型模型を製作し、シンポジウム会場でも実演する予定だったが、3D プリンター用のデータ作成が技術的、時間的に難しいことが分かり計画を変更している。当初計画段階で、専門業者からのアドバイスや詳細な見積りを依頼しなかったことが反省点として挙げられるが、計画変更にあたっては関係部署と調整し迅速に対応できた点は良かった。

個々の事業について、シンポジウムは台風 18 号の影響で鬼怒川が決壊し

たこともあり、区民の水害への関心が高い時期での開催であったため、想定を上回る参加者があった。参加者からは、自分たちが意見を言う時間をもっと設けてほしいという要望があったため、28年度の事業に活かしていきたい。

90周年記念ビデオや水害年表等の成果物については、道路公園課では環境展等で毎年小学生を対象に水害についての出前事業を実施しているため、その際に有効活用していきたい。また、子ども向けの水害に関する冊子がないため、28年度の事業で作成したいと考えている。

区では、平成3年以降の水害履歴を道路公園課の窓口で閲覧できるようになっているが、それ以前の記録がないため、本事業で水害に関する情報や水害体験者の記憶を記録に残すことは、水害の実体験を次世代に継承し、水害に強いまちづくりの推進に必要な取組みになると考える。団体の今までの活動で得た知識や人脈を通じて様々な情報を入手し、区が持つ情報と合わせることで、より有効的な情報になるため、28年度以降も引き続き計画どおり事業が進むよう、団体と協力して事業に取り組んでいきたい。

6. 事業の評価

(1) 点字ブロック点検、検証並びに

広域的点字ブロックデータベース制作事業

①計画段階での取組みについて

十分な事前調査と行政側との綿密な打ち合わせを行い、確実に実行でき、かつ課題解決に結び付く活動計画となっている。

区の福祉部門や社会福祉協議会等と連携して、より広がりのある事業展開を検討してみてもよいのではないかと考える。

②事業の進め方について

点字ブロックについての取組みは初めてであったが、当初の目的を達成することができたと思う。ただ、もう少し効率的に進めることができれば、より大きな成果に結び付いた可能性があったのではないかと考える。

ボランティアとの協働での現状確認作業はいい取組みである。

また、視覚障害者と健常者の相互理解をもっと深めてほしい。

③協働で取り組んだことによる効果について

主管課との連携はうまくいっていると感じられ、信頼関係は構築できていると思われる。

行政側も役割を認識して積極的に取り組むことができた。互いの信頼に基づいて事業を進めることができ、成果を得られることができたと思われる。

④協働事業の成果について

事業に当事者（視覚障害者）が参加したおかげで、より実効性の高い成果を得ることができた。行政だけではできない、民間ならではの取組みとなったことは「協働」の持つ意味が大きいものとする。

⑤将来性

本来、行政責任で取り組むべき事業であるが、一定の専門性が必要であり、今後も協力関係を築きながら事業を継続することが望ましいと考える。

データベースの将来にわたってのメンテナンスをどうするのか。財源の確保を含め、計画を立てる必要がある。

また、点字ブロックは劣化するので、常にデータベースが陳腐化する。区民が気軽に異常を通報できる窓口を設けて、随時是正する仕組みをビルドインしてはどうか。

(2) 北区の岩淵水門竣工 100 周年に向けて、

90 周年の今（でしょ）できること

①計画段階での取組みについて

他団体を含めたコンソーシアム的な取組みとなったため、やや計画に不備が見られた。計画段階で事業の目玉のひとつであった3Dプリンターを使ったノベルティ（赤水門の小型模型）の製作ができなかったことは計画に無理があったと言わざるを得ない。

計画にあたって、関係者の連携が密でない部分があったのではないか。

②事業の進め方について

協力団体が複数だったため意思疎通に難があったと考えられる。

当初計画の変更があったことの反省は必要である。

団体と主管課の信頼関係は築くものができると思われる。

北関東の降雨災害があったこともあり、事業はタイムリーであった。

③協働で取り組んだことによる効果について

行政との協力関係がなければ事業の成立は難しかったと思う。今後も役割を整理しながら協力して取り組んでほしい。

④協働事業の成果について

一部計画変更もあったが、概ね目的は達成することができたと思うが、より高い成果を生み出すことができたのではないか。

シンポジウム基調講演の土屋講師の話は迫力があり、面白かった。

調査結果を「普通の区民」に知ってもらい、興味を持ってもらうための工夫が必要である。

⑤将来性

水害について、より多くの区民に知らせる必要がある、今回の成果をどのように開示するのがキーポイントになる。ネットでの情報公開や青少年をもっと巻き込んで、伝え方を工夫することが必要である。

団体が明らかにした教訓や知見を、土木部の今後の取組みに活かして、区民の水害被害軽減に役立てることを期待する。

平成27年度 北区政策提案協働事業報告書

平成29年3月6日発行

刊行物登録番号

28-1-125

発行 東京都北区地域振興部地域振興課
東京都北区王子一丁目11番1号
電話 5390-0093 (ダイヤルイン)